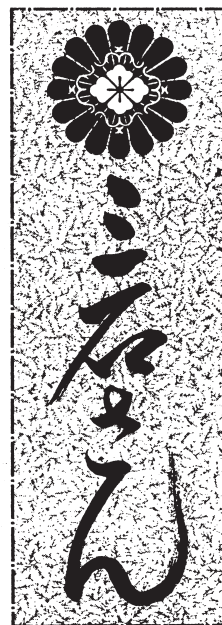


教育勅語原文



教育勅語の再認識を

発行所
三石神社社務所
神戸市兵庫区
和田宮通3丁目2-51
TEL (078)671-2531
FAX (078)671-7667
E-mail info@mitsuishi.or.jp
URL http://mitsuishi.or.jp

- ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。
- お伊勢さんのお神札（神宮大麻）と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。
- ご神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

三石神社 宮司 小林友博

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととご同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉獻を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年十月で一二〇年を迎えた「教育勅語」は、明治維新以降、我が国は文明開化の中で急激に欧米主義に傾倒していったことから、先祖から受けつがれてきた価値観などが失われるのではないかと、又、修身の学がなければ将来、国政を担うような人材の養育は望めないとの明治天皇の修身を第一とする大御心の思召しにより明治二十三年に渙発された。

その後、教育勅語は学校教育の主軸として、我が国の伝統精神を継承する国民の人間形成に資するところが大きかったことはいままでもないが、戦後、GHQの圧力により、学校教育から排除され、更に衆参議院で排除・失効に関する決議が行われ、教育勅語は効力を失い今日に至っている。

ここで教育勅語の一部を、国民道徳協会訳文より紹介すると「国民の皆さんは、子は親に孝養を尽くし、兄弟、姉妹は互いに力を合わせ助け合い、夫婦は仲睦まじく助け合い、友人は胸襟を開いて信じあい、そして自分の言動を慎み、すべての人々に愛の手をさしのべ、学問を怠らず、職業に専念し、知識を養い、人格を磨き、更に進んで、社会公共の為に貢献し、また法律や、秩序を守ることは勿論のこと、非常事態の発生の場合には、真心を捧げて、国の平和と、安全に奉仕しなければなりません。そして、これらのことは、善良な国民としての当然の務めであるばかりでなく、また、私達の祖先が、今日まで身を以って示し残された伝統的美風を、更に一層明らかにすることでもあります。」

昨今の道徳や社会ルールが守れない人達、又親子や家族間で起きる常軌を逸した行動や悲惨な事件、個人・家族がこの現状ならば政治に至っては尖閣諸島中国漁船衝突事件・ロシア大統領の北方領土訪問など国益に適った見識と責任を持った政治家を自覚してほしいものである。このように我が国の社会的規範意識の低下が叫ばれて久しい今日、教育勅語理念を普及啓発の気運も高まっている。

教育勅語は我が国の国民道徳を考える上で到底無視することが出来ない歴史と伝統を持っている。いくら時代が移り変わろうとも、そこに日本人としての国民意識の反映があり、それ故に神社界を中心とする諸団体も、昭和四十年代から積極的に教育勅語の普及啓発また精神復活を政府に請願し続けている。教育勅語の精神を子供たちや周りの人達に教え伝えて行くことで、子供や孫に立派な日本国を残していくことにつながると考えている。

三石さん



平成二十一年十一月

七五三詣祈禱齋行

十一月中、七五三詣祈禱を齋行した。

近年、十一月十五日を中心とする七五三詣観念はレンタル衣装の関係等で薄らいでいるようで、当社でも十月にも参拝する家族が増えて来ている。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拝殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やおモチャ・風船・おみやげセット等の他に三、五歳用としてアンパンマンバック、七歳用としてリラックマバック等の記



特設スタジオでの記念写真

念品もお渡しして大変喜ばれました。

期間中の土・日・祝日には会館二階に特設写真スタジオを設け、記念写真を撮っていただけるよう設備しています。

また、お宮参りにもご連絡頂ければスタジオを設備いたしております。七五三詣写真 四、五〇〇円より初宮詣 写真 七、〇〇〇円より

平成二十二年一月

年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭齋行

正月三日、第二十八回目となる「氏子崇敬者繁栄祈願祭」が総代・氏子崇敬者三十一名の参列のもと厳かに



ご神前での真剣斬り奉納



鳥居前での記念写真

齋行され、今年一年の各位の安寧と繁栄を祈願した。

本年の神前奉納は、宮司と旧来の友である、元兵庫県警察官で、少年剣道全国大会で優勝した「こだま会」を現在も兵庫警察署で指導し、剣道教士七段の西田茂先生の日本刀による真剣斬りが奉納された。

当日は、真剣を使用するというところで、参列者も緊張の面持ちの中で、室町時代の古刀豊後国紀太夫行平作

の刀身七・二cmの日本刀で、径約十五cmに巻かれた畳表の束を、切り口の乱れなく、袈裟斬りにて一刀両断見事に斬り落とし、参列者も盛大な拍手を送った。

式典後、参列者一同破魔矢を持ち、鳥居前にて記念写真を撮り直会に入った。

平成二十二年一月

工場起工地鎮祭齋行

二十四日、当社を氏神とする三菱電機(株)電力システム製作所で、タービン発電機生産用の新工場建設起工地鎮祭が齋行された。

この度の新工場は、新興国での発電設備新設や国内・北米などのリプレイス需要に対応するもので、天然ガス用発電機や原子力発電所の部品をも生産する。四棟の新工場建設の設計・施工を清水建設・東急建設共同企業体等に請負わせ、当日は事業本部長又、所長が地鎮の儀を執り行い、更に約六十名の参列者の各代表が玉串奉奠して、長期間に亘る工事の無災害と完工を祈願した。

納の申し出を受けたものである。
現在、神社会館に飾り、多数の方々
の観賞を得ている。

平成二十二年五月

例大祭齋行と神幸式雨天中止

本年より、御殿における例祭神事
と、神幸式を分けて齋行することと
なり、十七日午後六時からの例祭に
は、総代始め氏子崇敬者三十四名の
参列のもと、例年通り神前神楽も奉
納して厳肅に齋行した。後、会館二階
にて三菱神戸造船・清水総務課長の
来賓挨拶を賜り、乾杯、直会に入った。
二十二日(土曜日)、午前八時よ
り各地区お旅所の入魂修祓式を齋行
し、午後一時半より地区総代・氏子
役員自治会関係者の指導により、子
供みこし四基が神輿唄を声高らかに
唄いながら氏子内を巡幸した。
二十三日(日曜日)、の例大祭最
大の神事である神幸式は、雨天の為
中止とし、稚児行列参加の十一名の
子供さん達は、会館二階で稚児装束
を着装し、装束を付けた本年の猿田
彦奉仕者である山本君と記念写真を
撮影して記念とさせていただいた。



お稚児さん集合記念写真

夕刻の氏子合同直会では、昨年の新
型インフルエンザ神戸発生による二
年続けての神幸式中止を総代・氏子
役員等共々に空を見上げ残念がった。

平成二十二年六月

氏子崇敬者親旅行

毎年三日に神功皇后御陵参拝旅行
を実施していたが、近年御陵での祭

典が平日齋行となり参加者も減少し
てきたので、本年より「氏子崇敬者
親睦旅行」として日曜日に開催する
こととした。

十三日、氏子崇敬者二十六名の参
加のもと、岡山県備前方面を参拝旅
行した。先ず当社と同じく神功皇后
ゆかりの神社で社名も同じである備
前三石町の「三石明神社」を参拝した。

三石明神社の由緒は、「明神社又
は孕(はらみ)石神社とも言われて
いる。創設の年月日は詳らかでは
ないが、伝えるところによると約
千八百年の昔、即ち人皇第十四代仲
哀天皇のお后(きさき)であられた
神功皇后は、山陽道三石の地をご通



三石明神社参拝



旧閑谷学校での記念写真

過の折、この境内の丈余の岩の上に
お腰を休ませられた。その頃皇后は
ご懐妊の御身であった為、お座りに
なった岩及びその附近の小石に至る
まで子を孕(はらん)だようになつ
たと言われている。

其の後皇后はご順調にご安産せら
れ、皇子は竹内宿禰(すくね)がお
守りし、大和の国へ無事お歸りに
なったという。三石の地名も三石孕
石神社から来ているといわれている。
」と由緒略記に述べられている。

当日は雨天であったが、舗設テン
ト(拝殿が無い為)の中で、宮司と
参加者代表として高田総代が玉串拝
礼参拝した。

後、旧閑谷学校、後樂園・岡山城を巡って吉備津神社参拜と備前焼の備州窯を見学して帰神した。

平成二十二年七月

夏越祭(夏祭り) 齋行



茅の輪くぐり神事

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞鳴大神の夏越祭を齋行した。

十七日午後六時からの祭典は土曜日で近隣会社関係者の欠席もあつて総代・氏子崇敬者十三名の参列であつたが、例年通り上野順子琉球舞踊研究所神戸支部員による琉球舞踊二曲(かじやで風・秋の踊り)が神前奉納された後、参列者各位が玉串奉奠して祈願した。

更に、境内に設けた「大茅の輪くぐり」神事では「蘇民将来、ー」と唱えつつ左・右・左とくぐり夏の無

病息災を祈念した。

直会の時、茅の輪に用いる「ちがや」を使って家庭に祀る「茅の輪」を参列者各自で作る「蘇民将来子孫」の神札を付けるお守り作りが行なわれたが、出来上がった各自の茅の輪の大小、上手、下手に笑い声も出るなど和やかな雰囲気であつた。



神前奉納の琉球舞踊

平成二十二年九月

秋分・慰霊祭日

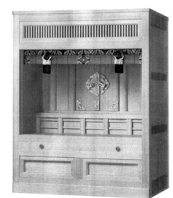
「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉どおり、彼岸は季節の変わり目であると同時に、また、祖先をまつる大切

な行事日です。彼岸は、春分の日(三月)と秋分の日(九月)があり、特に秋分の日には「祖先を敬い、亡くなった人をしのぶ日」として昭和二十三年に春分の日共々に法律の祝日法で制定された。

秋分は元々豊作を感謝した信仰であつて、山の神様を秋分以降に里から山へ送る儀式の中で、仏教の浸透と共に秋分は「秋の彼岸」として祖先を供養する意味を持ち始め、明治時代より、宮中での「春季・秋季皇霊祭」日とされてから、国民の間でも先祖供養の日としての宗教的慣例としてのまつり日と定着した。

さて、神道家では祖先のまつりは、神棚とは別に御霊舎(みたまや)の前で行う。これは仏式でいう仏壇に当るもので、祖先の霊が鎮まる霊壘を納め祀るところである。御霊舎は、神棚とは別の場所に設け、間取りなどの関係で、神棚の下に設ける場合は、神棚は大人が見上げる位の高さに、御霊舎は上半身の高さに設ける。また、神棚の隣に設ける場合は、御霊舎の位置をやや低くすることが慣用である。

御霊舎に限らず神棚を新設更に更



各種御霊舎

新奉安の際には、神職に依頼してお祓い祭典を齋行いたします。神棚・御霊舎等に関するご質問・ご相談ありましたら当社へご連絡下さい。懇切丁寧にご指導させていただきます。

秋祭(天照皇大神祭・神宮神嘗祭遥拝) 齋行と総代会開催

当社相殿に祀る天照皇大神の秋祭り、十七日の午後五時に総代のみの参列のもと初穂をはじめ秋の山野の味物をお供えして齋行し、伊勢神宮も遥拝して氏子崇敬者の平安と繁栄を祈願した。

祭典終了後より、本年最後の総代

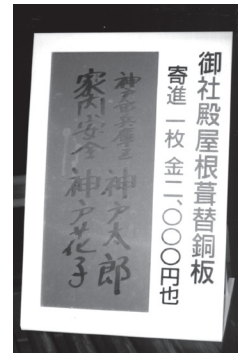


境内の奉賛芳名掲示板

会を開催し、神社の現状報告と平成二十三年正月三日の「年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭」斎行や、年間行事（神事）の日程等について協議した。後、総代ご令室を招待しての合同直会懇親会を別席で開催した。

社殿屋根葺き替え事業・銅板御寄進者ご芳名
(含 申込・分納・追加、平成二十一年十一月から平成二十二年十月末日まで)
順不同・敬称略

ご寄進誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。



銅板寄進案内板

趣意とお願ひ

現社殿は昭和三十八年に竣工し、四十数年が過ぎました。銅板の寿命は約五十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆々様に銅板寄進（一枚二千元）をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方々には重ねてのご案内となりましたことをご了承下さい。

新生児命名

平成二十一年十一月から平成二十二年十月まで

シリーズ

社務所・境内紹介

「参道敷石寄附者芳名石碑」

この「参道敷石寄附者石碑」は、大正十二年の皇太子（昭和天皇）御成婚（此年九月に関東大震災が発生した為、翌年に延期された）記念に合せ、参道の敷石を布設した際の氏子の人達の寄附金額と芳名を刻銘したものである。



大正 12 年の石碑

○・四m）に削り、達筆な行書体で左記の方々の名が刻されている。又左側面に「筆者名」も刻されているが、石工名はない。

尚、当時の参道敷石は、平成五年の御修造の際改たに新設したので残っていない。

さて、大正十二年頃の公務員の初任給が約四十五円の時代であり、一円は、現在の約四千三百八十円に相当し、五円寄附者は、現在の約二万二千元の敷石寄附金を奉納したことになる。

- 参道敷石寄附者
- 金五十円 京橋繁藏
- 金四十円 藤原力松
- 金三十円 安原良藏・山本芳太郎・竹内円太郎
- 金二十円 奈良亀・大西佐太郎・諸

稲荷社北側に建立されているが、元は御殿周り境内の左側にあつたものを、平成五年斎行の平成の御修造玉垣改修の際現在地に移転した。方約一・一m×一mの丸型自然石組み合わせの台座の上に、高約一・九m厚約○・三mの青御影石前面（幅約○・六m）を枠型（縦一・三四m×横

- 橋謹三郎・田村善吉・杉本源三郎・吉田茂吉・中川豊太・藤崎涼松
- 金十五円 美安将司・浅井国太郎
- 金十三円 西村寿太郎
- 金十円 社銀行支店・山田石鹼製造所・中畑新造・岡野栄竹・上野キ
- 又
- 金七円 武田寿を
- 金五円 大橋滝三郎・宮島正一・中

野兵太郎・田丸恒吉・古川與三松・森川梅吉・足立和蔵・井上千代蔵・跡部操・砂川儀平・山田又助・吉田浅五郎・田尻英次・武末和吉・上島五一郎・恩田さと・津田録吉・森仙吉・小森仙治郎・藤本信一・東辰之助・高畑弥平・太子良助・福島清松・児島フサ・伏見繁一・生駒勝太郎・中津清治・太田栄一郎・河本重雄・三浦一次・土居與吉・松浦万吉・金川良助・小西茂三郎・岡沢喜平次

為皇太子殿下御成婚記念布説之
大正十二年五月

社当 杉村清太郎
世話人 吉田茂吉・杉本源三郎
筆者 石田久造

シリーズ

書籍『見える三石さん』

『神戸人物史』

『モノメントウオークのすすめ』

本年三月に神戸新聞総合出版センターから発刊された、田辺眞人氏編著の『神戸人物史モノメントウオークのすすめ』（定価・本体一、〇〇〇円十税）所載「神功皇后の像」



神戸人物史

の項に、『日本書紀』による神功皇后の事績を簡単に記載した後、当社が次のように紹介されている。

―この像は、神功皇后上陸の地と伝える和田岬の三石神社境内にある。神戸の生田・長田神社の創建伝説にも神功皇后が登場する。九州からの帰途、大阪湾上で船が進まなくなり占うと「広田・生田・長田にそれぞれを神を祀れ」というお告げを受け、三社を創り祀ったと『日本書紀』は記している。―

戦後、神功皇后は歴史上架空の人物とされる傾向にあるようだが、神功皇后を御祭神として祀る当社として、この度の田辺氏の取り上げ掲載

に敬意を表したい。

平成二十三年の神社行事・行事予定

- 一月 一日 歳旦祭（初詣）
- 一月 三日 氏子崇敬者繁栄祈願祭
- （加藤・中野先生琵琶演奏奉納）
- 四月 十七日 氏子会総会
- 四月 二十四日 猿田彦会総会
- 五月 十七日 例大祭（神楽奉納）
- 二十一日 地区子供みこし巡幸
- 二十二日 神幸式（おわたり）
- 六月 十三日 氏子崇敬者親睦旅行
- 七月 十七日 夏越祭
- （琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり）
- 十八日（茅の輪くぐり）
- 九月二十三日 西宮神社産宮参り
- 十月 十七日 秋祭（天照大神祭）
- 十一月中 七五三詣
- 各月一日 月次祭

印刷所

(有)前川企画印刷

神戸市兵庫区永沢町二丁目三十一
 Ⅷ (〇七八) 五七七―二四八八
 Ⅸ (〇七八) 五七七―七三二〇